

特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会

# OAJ NEWS

Olympians Association of Japan

2023 vol. 40



スポーツクリ



スポーツ振興くじ助成事業

OAJ

# 20th Anniversary



# オリンピックの人間力

「オリンピックの人間力」では、まなざしの奥に潜在するオリンピックの人間力に迫ります。（写真：フォート・キシモト）

日本オリンピック協会  
設立20周年記念

OAJ 20th Anniversary



## Once an Olympian, always an Olympian —元オリンピックとは言わせない—

2003（平成15）年9月5日、国立代々木競技場第一体育館の一角に居を構えOAJはスタートした。それから20年、日本のオリンピックの相互理解と親睦を図り、世界オリンピックズ協会（WOA）の一員として、オリンピック・ムーブメントを推進、スポーツを通じた世界平和と国際的友好親善に貢献し、スポーツ振興に寄与することを目的として歩んできた。

この20年間、スポーツ界のみならず世界が大きく変革する中で、オリンピックやアスリートに求められるものは「類まれな技術」や「成績」だけでは無くなっている。今後OAJは、多様化する社会の中で様々な状況を見極めながら、スポーツの価値向上や憧れられるアスリートの育成にも力強く取り組んでいく。

はじめに、今回OAJが設立20周年の節目を迎えるにあたり、スポーツに対する考え方、影響力、また、東京2020大会を経てより一層変化が激しくなった現在、これまでOAJに長く関わってきた中で、スポーツ界全体を通して、OAJがどのような存在なのかを浮き彫りにしたい。

### — OAJ20年の歩みについて、時代とともに変化してきたことは何か

鈴木大地名誉会長（以下、鈴木）：

鈴木：私は初代竹田恆和会長の後、第2代（2013年4月～2023年3月）会長となったわけですが、今思えばあっという間の10年間でした。

2013年は9月に東京2020大会の開催が決定した年でもあり、スポーツ界特にオリンピック・パラリンピックの大きな山が動いた年であったと感じています。私自身OAJ会長に就任し、その後すぐに日本水泳連盟（以下、水連）の会長にも就任しました。

OAJの活動としては、就任当初は先人（先輩）たちが、築いて下さったと物を大事にしていく、ということだったかと思っています。ただし、46歳という若さもあり、新しい風を吹かせたい、という思いもありました。

後期は東京2020大会、コロナ禍と誰もが予期しない状況になりましたが、OAJの活動そのものは、多くの方々に協力いただきながら、これまでを大切にしつつ継続して実施していく事業と、これからは見据えた新しい試みとのバランスを意識しながら進めてきました。

また、2003年から2015年まで、世界オリンピックズ協会（以下、WOA）にも関わることになりました。はじめてWOAの選挙に立候補した際は、正直WOAのことも良く知らない状況でした。「新しい組織なので気楽にやっこい」と言われて総会に出席した際、IOCのホールには、有名な選手がたくさん集まっていました。OAJのサポートもあり、なんとか選挙に当選することができました。改めて「世界にこういう団体があって活発に活動しているのか…」という認識を持って帰国しました。

WOAの理事になり、自分自身これまで金メダルを獲得したことがオリンピックとしての「ゴール」だと思っていましたが、世界にはメダリストは大勢おり、引退後に「何をしているか」ということが重要だという事に気が付きました。引退したオリンピックの中には、弁護士や政治家もおられ、競技者としてのゴールはメ

ダルかもしれないが、オリンピックとしてのスタートなのだという事に気付かされました。

総会から帰国後、大学の理事長にWOA理事の就任について報告したところ、「海外で活動するのであれば、PH.D（博士号）の取得が必要だ」と言われ、さらに勉強することになり、多忙を極めました。世界中のオリンピックから刺激を受け、「もっと頑張らねば」という自分の人生の中で、キャリアを真剣に考える良い機会となったので、今となってはOAJには本当に感謝しています。

小谷実可子会長（以下、小谷）：

私も鈴木前会長も、OAJが設立した当初から役員として関わり、理事会等会議の場を通して、毎回、他競技のレジェンドと言われる諸先輩方のお話を聞きながら、多くのことを学ばせていただきました。その間、鈴木前会長が、水連の会長、スポーツ庁長官に就任され、さらに幅広い経験の中からOAJに刺激を与えて下さり、WOAの役職も私が引き継ぐ形となり、現在は副会長を務めています。WOAも現在では世界108の国・地域に設立され、今年9月にイスタンブールで開催されたWOAフォーラムでも、「オリンピックとして社会の為に何ができるか」ということについて、活発な意見交換や交流が見られました。日本のオリンピックも毎年、WOAの助成を受け、多くのオリンピックたちにより、SDGsをはじめとした社会貢献活動が積極的に行われています。鈴木前会長が築いてくれた流れから、さらにアクティブな活動へ移行し、皆が目指し、目標とする組織になっていかなければと思っていますので、今後はさらに活動を広げながら、OAJを世界から一目置かれる組織にしていきたいと思っています。

### — オリンピアンとは、競技を引退後、スポーツ界のリーダーとしてセカンドキャリアの活動していくことを目指すべきか

鈴木：WOAの標語にOnce an Olympian, always an Olympian（一度オリンピックになったら、ずっとオリンピックである）とあります。日本では時々「元オリンピック選手」と紹介されることもありますが、現役か引退したかのみの違いで、本来「オリンピック」は一生「オリンピック」なのです。「元オリンピック選手」という表現が、時として、過去の人もう何も出来ない人…という感じを受けるので大変残念に思います。

今後、元オリンピック選手という言葉が無くなる環境が広がることで、生涯に渡ってオリンピックが活躍できる社会につながると思うので、そのような環境を作ってほしいと思います。

**小谷**：それがまさに「OLY」のピンです。オリンピックが競技引退後に改めてオリンピックとして活動していきましょうというもので、PH.Dに代わるものとして、「OLY」という称号を国際的に制定しました。

そこには意味もあり使命もありますし、これを身に着けている限り、前会長がいつも言うとおり、世のため、人のためになるオリンピックを増やしていきたいと思えます。

#### 一 現役時代と引退後にWOAをはじめ様々な組織と関わる事で、考えが変化していると思うが、これからの選手対して、自身の考えをどのように伝えていくか

**鈴木**：私たちが競技をしていたころは、今から30年以上前になります。今とは競技環境が違い、その頃は、海外遠征に行く際に選手個人が10万円程度負担することもありました。その頃に比べると現在は、国（JSC含む）やJOCが強化費しっかりサポートしてくれているので、過去とは競技環境が大きく変わったと思えます。このように恵まれている状況であることを、現役選手にはしっかり伝える必要があると思えますし、自発的な社会への還元があるべきだと考えますが、現役選手はそうした状況を知る機会がなかなかないと思うので、気づきにつながる教育プログラムを時代の変化に合わせて作っていく必要があると思えます。

**小谷**：競技生活を送っている時は、メダルを取ることにフォーカスしてきましたが、JOCの立場としても、「憧れられるアスリートの育成」を強く考えています。オリンピックがオリンピックとして、より学び、進化し、社会に還元していくために、どのようなことが必要なのか、JOCとして、オリンピック研修会等で歴史やオリンピズムを学ぶ機会がありますが、今後はSDGs活動も含めてさらに充実していく必要があると思えます。

また、今年度OAJの新しい取組みとして、オリンピック巡回指導事業の中で、これまでのように競技の指導だけでなく、参加した子どもたちと一緒に河川敷のゴミ拾いをしました。前日の指導で参加者との距離が近くなったことで、会話も弾み、環境保全活動もより自分ごととして捉えてくれていたように思えます。また、普段それほど環境のことに興味のない人たちの新たな気づきにもつながっていました。このような活動を今後もしていくことで、人々をインスパイアしていきたいですし、多くのオリンピックの皆様が社会を変えるお手伝いができるのではないかとこのことに気づいてもらいたいです。そのために、言葉で伝えるだけでなく、私自身今後も現場で積極的に活動していきたいと思えます。

#### 一 アスリートがスポーツ界から求められる姿が変化する中、大学スポーツについて、特にアメリカ（NCAA）では、学業もおろそかにしないことが常識となっているが、日本ではまだそのような状況に至っていない現実をどのように感じているか

**鈴木**：2019年に日本版NCAAを創出し、多くの大学が参画すると予想していたところ、思っていた以上に加盟する大学が少なかったです。ただし、アメリカのNCAAも当初は有名大学が加盟していなかったという事実もありますし、特に日本は歴史的にユニバス（大学スポーツ協会）がなくとも体育会やインカレが成り立っていますが、今後徐々に加盟校が増加していくことを期待しております。本題の学業重視の件については、重要なポイントですし、引退後のオリンピックが社会で貢献するために、大学での学びは邪魔にはなりません。海外でオリンピックが引退して社会で成功するのは、しっかり学業を修めているからではないでしょうか。自分自身の大学時代を振り返ると競技優先でしたが（笑）、勝利至上主義に傾注せず、練習時間を減らした分について学業に活かすことができればまた違った人生になっていたかもしれません。

今後勉強する機会を確保しつつ、スポーツにも熱中できるよう大学の入試・教育制度の改革が必要ですし、日本もオールアメリカンのような制度を導入するなどスポーツと勉強のバランスのとれた学生を作っていくことが大切ではないでしょうか。

**小谷**：「元オリンピック選手」を無くしたい、というお話がありますが、同じように「スポーツバカ」という言葉があるのは日本だけではないでしょうか。そういう言葉を認めない社会が必要だと思います。2000年のシドニー大会の際、水泳/競泳のイアン・ソープ選手が絶大な人気でした、その理由は、彼が競技のみならず、学業や社会貢献活動もしっかりしていたことから、多くの人が応援し、子どもたちのロールモデルになっているとのことでした。現在、日本国内の大学スポーツは不祥事が多く厳しい目が注がれていますが、そういう事を払拭した上で、競技成績だけにフォーカスすることなく、社会の価値観も変化してほしいと思えます。

**鈴木**：大学のスポーツ組織は、まだ古い考えが多くガバナンス、コンプライアンスを聞く耳をもたないケースもあるようです。そうした事を是正した上で一般常識に耐えうるような仕組みを構築していかなければ、これからは通用しないと思えます。

#### 一 運動部活動の地域移行について、今後オリンピックはどのように関わっていくべきか

**小谷**：部活動の地域移行については、地域ごとにシステムを構築し、例えば月に1回オリンピックが現場に激励に行く等もありではないでしょうか。ただし、地域ごとにシステムが異なるため、今後OAJとしてはオリンピック情報をしっかりと把握した上で、競技だけでなく地域・年代ごと等のデータベースの構築が必要だと思います。

**鈴木**：競技団体の立場から言えば、水泳ではすでに地域クラブが受け入れられていると思えます。ただし、部活動改革は、地方型、都市型の違いだけでなく、競技ごとなど、様々な事情があり、回答が1つではありません。合わせて、部活動に関わる顧問（教員）の働き方改革の問題もあり、思っていた以上に難題です。小谷会長が言うとおり、オリンピックの活用は起爆剤に成り得ます。オリンピックでも教員免許を持っていない方は、「教育原理」など教育に関する知識を修得したり、逆に顧問の先生は担当する部活動の競技の指導法について勉強をするなどすれば、さらにより部活動改革に繋がるのではないのでしょうか。日本のスポーツ界は部活動に支えられてきたのも事実なので、少子化の問題に直面している中で、良い方向に進んで欲しいです。

#### 一 今後、オリンピックはどのような社会貢献活動をしていくべきか

**小谷**：自分がゴミ拾いを推している理由は、東京2020大会の組



織委員会に関わったことで、大会終了後には様々な問題があったことは事実ですが、オリンピックは単純にスポーツの競技大会だけでなく、その側面では社会の発展や成長につながる多くのことがなされていたことが分かり、改めて発信力や影響力があるオリンピックアンとして社会貢献していくべきだと率直に感じたからです。たまたま、自分のマッサージの先生がビーチクリーン活動を実施しているのを思い出して、早速活動に参加したところ、無心でゴミを拾う時間が思っていた以上に楽しかったので、それから続けています。帰りに立ち寄ったとんかつ屋さんで「オリンピックが来て、ゴミ拾いをしてくれるなら地元の私たちも頑張らなきゃね」と言ってくれたことが印象的でした。

また、最近では環境問題を学ぶ場にも積極的に参加し、このままでは2050年には魚類より海洋プラスチックが多くなるという事、地球温暖化があと2℃上昇すれば、世界のスキー場が60%減少する事や世界の主張11か国の中で気候変動を心配している若者の数が、日本は桁外れに少ないことなどを学びました。このような学びから、さらに環境保全を活動を自分ごととして捉えることが大切だと思います。

JOCでもアスリート委員会を中心に植林活動を実施していますが、学校訪問等で環境について話をする際、先生が伝えるより、オリンピックの言葉で伝えてもらう方が、生徒が素直に受け止めるとの声が寄せられたと聞いています。専門的な知識があれば良いということでもなく、オリンピックはこうした活動にも十分役目を果たせる存在なので、そのためにもオリンピックの皆さんに対する学びの場は必要だと思います。

#### 一 具体的にどのような姿を発信させたいか

**鈴木：**人として当たり前のことを地道に続けていくだけでよいのではないのでしょうか。

オリンピックの発信力は絶大です。自分が水連内でオープンウォーター競技（OWS）を担当したことがありました。当時は選手がOWS競技に参加してくれませんでした。参加しない理由を聞くと、「海が汚い」ということでした。

そこで、微力ながら私自身もビーチクリーン活動を実施しました。一人の力は小さいですが、それをオリンピックが素直な感情を伝えながら行うことで、まわりの人も興味を持ち、活動が広まっていくものです。メディアの力も借りることも重要です。世間でも、引退したオリンピックがどうしているのか、気になる人もあります。オリンピックが地道に活動をしていれば、自ずとスポーツの価値もあがり、オリンピック自身も誇りを持ちながら生活できるのではないのでしょうか。

#### 一 今後OAJはどのようにしていくべきか

**鈴木：**OAJとJOC連携を強化した上で、シナジー効果を創出する取組みを生みだして欲しいと思います。JOCのルール上、OAJが独自のマーケティング活動を進めることは難しいと思うので、JOCのアスリート委員会と共に事業を進めることで、次世代に繋げて欲しいです。そういう意味では小谷さんがOAJ会長に就任されたことで新しい展開を期待しています。

**小谷：**JOCアスリート委員会と歩調を合わせて、今後もOAJに携わってくださるレジェンドオリンピックの先輩方からも多くの事を学びつつ、若いオリンピックの方とも一緒に進めていきたいです。さらにJOCのアスリート委員会のみならずOAJ活動にJOCのパートナー都市との連携も効果的だと思います。また、オリンピックの会員登録についても、大会出場時に自動登録される形から、その後組織を認知した上



で、オリンピック自ら会費を払う価値ある組織となるよう、成長していきたいと思っています。

#### 一 最後に来年開催される2024パリ大会に向けて一言

**鈴木：**東京2020大会の後の重要な大会となると思います。競技結果も大事ですが、オリンピックの空気感としても重要な大会です。現在混迷しているロシア・ウクライナの問題、イスラエル、パレスチナの問題等、この先世界情勢がどのようになるか不安です。そのような中で、平和にスポーツが出来ることに感謝しながら、今こそ世界中のアスリートが手を携えてオリンピックの力を見せてもらいたいです。無事にパリ2024大会を迎えられることを心から祈るばかりです。

**小谷：**ロシア・ベラルーシ等「中立選手」の扱いは気になるところではありますが、東京2020大会はコロナ禍で無観客となった異例の大会を経験しているため、ようやく通常のオリンピック競技大会が戻ってくることを楽しみにしています。

自分の競技のアーティスティックスイミングでも男子選手がはじめて出場しますが、大会全体の出場選手のジェンダーバランス（男女比）が50%、50%になります。また、ペットボトルを一切使用しない等、環境問題を目に見える形で意識した、一歩進んだ新しい形のオリンピックになると思います。勿論、会場は都都パリですし、華やかでパリらしい大会になることを期待しています。また、10月8日に閉会した杭州のアジア大会でもTEAM JAPANの活躍も素晴らしかったですが、大会前の会議等では、汚染水の問題等があったことで、現地でTEAM JAPANのユニフォームを着て外に出ないようにするなどの懸念がありました。しかし、実際には驚くほど素晴らしい大会運営で、すぐにもオリンピックが開催できるレベルでした。競技施設や運営、ボランティアの方々、地元の人々もフレンドリーで、現地の人との会話の中で、「東京は本当に大変な中でオリンピックを開催されましたが、あれが出来たのは日本だけですね」との温かい発言がありました。

改めて、スポーツの現場においては、政治も関係なく心から繋がっていると実感できたので、パリ2024大会でも、真のオリンピックがあることを信じて応援していきたいと思っています。



インタビュー：坂井寿如理事

# 新役員の紹介

※は新任



## 会長 小谷 実可子

シンクロナイズドスイミング (現AS)  
皆さんと学び合いながら、オリンピックの価値を高め、共に豊かな社会づくりに寄与できるよう尽力して参ります。



## 副会長/理事長 山下 泰裕

柔道  
OAJは今後さらにJOCとの連携を強化しながらオリンピズムが浸透している社会の実現を目指します。



## 副会長 瀬古 利彦

陸上競技  
スポーツの素晴らしさを通じて人々が笑顔で平和な日々を送れますよう、皆さんと頑張ってお参ります！



## 副会長 富山 英明

レスリング  
スポーツは、明るく、楽しく、生き生きと！スポーツの輝きを国民全てに届けたい。これがオリンピックのミッションです。



## 副会長 丸山 由美

バレーボール  
スポーツを通じた平和とスポーツの価値をOAJ会員の皆様と共に多くの方々に伝えていきたいと思ひます。



## 理事 東 伸行

フェンシング  
オリンピックムーブメントを推進し、スポーツを通じた社会教育や共生社会の推進を図る活動を進めたい。



## 理事 荒木 絵里香

バレーボール  
世代を超えたオリンピックの交流やオリンピックの魅力を広げていくよう尽力します。



## 理事 伊藤 華英

競泳  
オリンピックの皆さんと一緒にオリンピックムーブメントを進めて行ければと思ひます。共に頑張ってお参ります。



## 理事 上村 愛子

スキー/モーグル  
オリンピックの経験や知識をより多くの方に届けられるよう、皆さんと協力しながら精一杯働きます。



## 理事 大澤 明美

カーリング  
2期目を務めさせていただくことになりました。これまでの経験を生かし、全力を尽くしてまいります。



## 理事 坂井 寿如

アイスホッケー  
若いオリンピックの方々活躍に貢献できればと思ひます。



## 理事 高橋 成美

フィギュアスケート  
交流や活動を通じてオリンピックの価値や魅力が伝わるように頑張ります。



## 理事 高平 慎士

陸上競技  
未来に繋がるオリンピックやスポーツの価値を皆さんと創っていきたくと思ひます。



## 理事 谷本 歩実

柔道  
時代に求められるオリンピックの在り方を皆さんと一緒に創っていきたくと思ひます。



## 理事 中村 真衣

競泳  
オリンピック相互の交流を深め、オリンピックムーブメントを、多くの方々に広めて行きたいと思ひます。



## 理事 羽根田 卓也

カヌー  
オリンピックが持つ力を最大化できるよう、オリンピックの皆様と共に尽力させていただきます。



## 理事 藤丸 真世

シンクロナイズドスイミング (現AS)  
オリンピックの力が、多くの人たちの力になれるような取り組みが出来るとういと思ひます。



## 理事 水鳥 寿思

体操競技  
オリンピックが社会で活躍することにより、みなさんの生活が楽しく充実したものになるよう活動していきたくと思ひます。



## 理事 三宅 宏実

ウエイトリフティング  
競技の垣根を超え、繋がる交流がスポーツの未来にバトンを渡せるよう頑張ります！



## 監事 小口 貴久

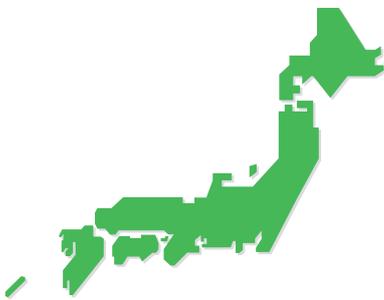
リュージュ  
皆さんと連携・協働しながら、多くの方にオリンピズムを知っていただけるよう活動したいと思ひます。



## 監事 湯元 健一

レスリング  
皆さんと一緒にオリンピックの魅力や価値を高める活動をしていきたくと思ひます。





令和4年度

# オリンピック巡回指導事業 (スポーツ振興くじ助成事業)

11/3

大阪府茨木市



競泳

共 催：シンコースポーツ株式会社  
会 場：五十鈴市民プール  
参加者：28名  
講 師：中西 悠子

11/26

埼玉県深谷市



バドミントン

共 催：公益財団法人深谷市地域振興財団  
会 場：深谷市総合体育館  
参加者：71名  
講 師：町田 文彦・水井 妃佐子

12/4

青森県青森市



陸上競技

共 催：スポーツ青い森グループ  
会 場：新青森県営陸上競技場  
参加者：69名  
講 師：高橋 萌木子

3/12

兵庫県西宮市



水球

共 催：神戸総合型地域スポーツクラブ  
六甲すこやかクラブ  
会 場：関西学院大学  
参加者：84名  
講 師：志水 祐介・新澤 由貴

令和5年度

# オリンピック巡回指導事業 (スポーツ振興くじ助成事業)

令和5年度は全国9会場で開催。各会場の開催報告はOAJウェブサイトやSNSで掲載してまいりますので、ぜひご覧ください！！  
また、令和6年度の開催地募集要項をウェブサイトに掲載しております。皆様からのご応募お待ちしております。  
(締切：2024年2月末日予定)

大分県  
玖珠町

8/23

●アーティスティックスイミング  
玖珠町B&G海洋センター  
共催：(一財)日本スポーツSDGs協会

北海道  
別海町

10/28

●バレーボール  
別海町総合スポーツセンター  
共催：(一財)別海町地域振興財団

埼玉県  
深谷市

11/19

●陸上競技  
仙元山公園陸上競技場  
共催：(公財)深谷市地域振興財団

大阪府  
茨木市

12/17

●器械体操  
茨木市立東市民体育館  
共催：認定NPO法人  
茨木東スポーツクラブレッツ

香川県  
高松市

1/14

●競泳  
香川県立総合水泳プール  
共催：シンコースポーツ(株)

山形県  
米沢市

2/10

●アルペンスキー  
赤倉温泉スキー場  
共催：山形県スキー連盟

和歌山県  
橋本市

2/12

●柔道  
和歌山県立橋本体育館  
共催：(公財)  
橋本市文化スポーツ振興公社

兵庫県  
姫路市

3/3

●卓球  
姫路市立飾磨小学校  
共催：スポーツクラブ21しかも

群馬県  
伊勢崎市

3/31

●バドミントン  
伊勢崎市華蔵寺公園  
運動施設  
共催：伊勢崎市バドミントン協会

# WOA FORUM 2023

2023.9.16~17、トルコ／イスタンブールにて、世界オリンピックズ協会（WOA）主催のフォーラムが開催され、105の国と地域のオリンピックズ協会からオリンピックが集いました。OAJからは、WOA副会長でもある小谷実可子OAJ会長と、高橋成美OAJ理事（フィギュアスケート）が参加。2日目に行われたパネルディスカッションには高橋理事も登壇し、OAJの活動報告を行いました。



『WOAフォーラム2023。頭も身体も心もフル活動したインスパイアリングな2日間でした！「更なる高み」を目指した真剣なディスカッションを世界中のオリンピックとし、お互いに刺激をし合うことができました。しっかりと積み重ねていくことが大切だと思うので、この経験をもとに精進します！』

## WOA GRANTS 2023 受賞

### Women Leaders' Support Network in Sports - "Think Together, Change Together" 女性リーダーサポートネットワーク in Sports- "Think Together, Change Together"

Olympian — 井本直歩子 競泳／アトランタ

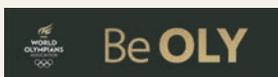
### A project to promote clothed swimming 着衣泳を広げるプロジェクト

Olympian — 岩崎恭子 競泳／バルセロナ・アトランタ

### Olympians' Action Project for Plastic Waste Problem オリンピックによるプラスチックゴミ問題へのアクションプロジェクト

Olympian — 複数オリンピックによる共同提案企画

## Be OLY



OLYはオリンピックに出場したオリンピックのみが使用できる称号で、スポーツにおける博士号に相当し、SNSや履歴書、名刺などで氏名に併記することができます。

オリンピックに有益な情報も届くようになりますので、まだ取得されていない方はぜひご申請ください！

また、OAJの会員でOLYの認証を受けた方には、限定のOLYピンをお送りしています。

OLYの詳細やOLYピンの申請方法についてはQRコードやOAJのHPにあるリンクバナーからご確認ください。

※OLYの対象はIOCに出場記録がある方となっております。

OLYについて

<https://www.oaj.jp/news/180426/>



OLYピン

<https://www.oaj.jp/news/180925/>



## 令和4年度オリンピックの集い

2022年11月14日(月)、東京都/明治記念館で「オリンピックの集い」を開催しました。新型コロナウイルス感染拡大をうけ、長らく開催できておりませんでした。今回は感染対策を行い、コロナ禍になって以降、初の対面での懇親会の開催となりました。ご参加いただきました皆様ありがとうございました！



## ミズノスポーツ振興財団助成

公益財団法人ミズノスポーツ振興財団から、本年度もオリンピックムーブメント昂揚のための助成金をいただきました。



## 日本オリンピックズ協会 SNS・ウェブサイトのご紹介



OAJ公式ウェブサイト  
<https://www.oaj.jp/>



Instagram  
@日本オリンピックズ協会



Facebook  
@oaj.jp



YouTube  
@日本オリンピックズ協会



LINE  
@日本オリンピックズ協会



OAJやWOAについて様々な情報を発信していますので、ぜひチェックしてください!!  
『登録・フォロー・いいね』もぜひお願いします!!

## すべての スポーツに エールを

スポーツくじの収益は、  
日本のスポーツを育てるために  
使われています。



くじを買うはエールになる



※19歳未満の方の購入又は譲り受けは法律で禁じられています。払戻金も受け取れません。運営・販売：独立行政法人日本スポーツ振興センター

**OAJ NEWS**  
Olympians Association of Japan

2023  
40

発行日：令和5年12月19日  
発行：特定非営利活動法人日本オリンピックズ協会  
製作：日本印刷株式会社

〒160-0013  
東京都新宿区麩ヶ丘4-2 Japan Sport Olympic Square 4階  
URL：<https://www.oaj.jp>

※本誌に掲載されている内容の無断転載・複製を禁じます。